

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700066		
法人名	ケアネット・ジャパン		
事業所名	ケアネットホーム白金 (1階)		
所在地	名古屋市長和区白金1-20-3		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	平成28年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえてビル 2階		
訪問調査日	平成27年12月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を重視し明るい施設です。レクリエーションに力をいれ生活の中でのリハビリをおこなっている。月に1回の外出レクはスタッフもほぼ全員出勤一緒に楽しく過ごしています。施設であって施設でないような日々をご利用様に過ごしていただいています。利用者様お一人おひとりのご希望や意見をうかがいながら寄り添った介護をめざします。ご家族の皆様にも「お母様、お父様の家を訪ねる」気持ちで気軽に面会にお越しいただいています。面会簿や玄関の施錠はしていないので自然体での訪問をしてもらっています。地域に対しても町内会へいられていただいたり行事に参加させてもらったりと開かれた施設をめざしています。

事業所の近くは幹線道路や高速道路が交差する賑やかな街並みが広がっている。開設3年目を迎えた木造2階建ての趣のある事業所は、路一筋中に面した住宅地に位置している。児童館や保育園に隣接し、近くに公園や小学校、お寺や神社、町工場もあり昔の風情が感じられる。「人としての尊厳と喜びを」根底に職員で日々のケアについて考え気持ちを合わせ、入居者に沿った支援に努めている。入居者の「今」を大切に、レクリエーションや食育活動に力を注ぎ楽しく参加できるように工夫をしている。「認知症カフェ」や事業所の催しは、新聞広告折り込みやチャンドン屋で地域へ情報を発信している。太鼓演奏、流しそめん、ポン菓子など地域の人と一緒に楽しみ、積極的に関わりを深めている。また、「故郷訪ツアー」と題して、バスツアーや昔を懐かしむお千代保福荷などの神社巡り、みかんやメロン狩り、地域の名所散策などを職員や家族、町内会の人々と共に楽しんでいる。寿司や焼き鳥パーティ、五平餅、おせち、お弁当など職員と一緒に作ったり、ハンドベルなど地域のボランティアの演奏や書道、ジャズダンスやゲームなどのレクリエーションをしながら、職員に支えられ自分を活かし元気づけて過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1) ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を掲示し管理者と職員はコミュニケーションを密にとり施設の方針を職員におとしこむようにしている。	事業所の理念を目に付きやすい玄関や各ユニットに掲示している。簡素で分かりやすく6項目で表記して職員間で共有し、日々のケアに繋げている。また、ケアの中で職員相互に気付き促しをしながら理念を振り返り、共有を深め実践に活かすように心がけている。	
2	(2) ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「認知症カフェ」を開催し地域に施設の存在のアピールをおこなっている町内会や敬老会、女性会に参加している。	町内会、女性会に加入し、回覧板を通して地域の情報を入手している。地域の祭礼や保育園、小学校の行事に参加したり、散歩や買い物に出かけ地域の人たちとの関わりを大切にしている。「認知症カフェ」の催しを新聞広告折り込みなどで地域へ発信し、太鼓演奏、ポン菓子など地域の人と一緒に楽しみ積極的に関わりを深めている。	
3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加し認知症の理解をしていただけるようにしている。		
4	(3) ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に積極的に施設へでかけていただけるようにしている。気軽に話し合いができる関係をきづいている	入居者、家族、町内会会長、職員の参加を得て、3か月に1回開催されている。事業所の行事報告や地域との情報交換などが行われている。提案や意見は記録されカンファレンスで協議し、運営に活かされている。	より多くの方に事業所の実態を知って頂き、意見を協議し運営に活かしていくように、行政の参加や開催数の増加、曜日や時間等の検討をし、2か月に1回開催していくことを願いたい。
5	(4) ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の事業所連絡会への参加や他の事業所との連携をとっている。質問等の或る時も積極的に市町村にといあわせをおこなっている	推進会議の資料等の配布や代行申請、更新手続きの折に、行政担当者に指導や助言を得ている。市ホームページの情報を得て入居者と一緒に消防署行事に参加したり、下水道科学館などの公共施設に出かけ連携を図っている。区の事業所連絡会では幹事を務め、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしたい。	
6	(5) ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを重視し声かけを頻回に行っている	身体拘束の研修会参加やマニュアルを通して意識を高め、スピーチロックや束縛感のない環境やケアに努めている。玄関は防犯対策上夜間のみ施錠を行い、昼間は職員の見守りや声かけ、涼やかな鈴の音で対応している。	
7	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員同志の懇親に努め虐待等のないように互いに指摘しあえる環境作りを行っている		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利を擁護するために一人ひとりの状態観察をし自立のさまたげのないようになっている		
9	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の理解の得られるように契約の際はわかりやすい内容と言葉で説明し家族からも質問がうけられるような人間関係を築く様努力している		
10	(6) ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にみえたときや家族会を行うことで家族の要望や意見を伺い取り入れるようにしている	入居者からは日常のケアの中で把握し、業務日誌に記入しその都度検討をしている。家族からは運営推進会議や面会、行事時などに意見や提案を聞き、ミーティング等で話し合い運営に反映させている。月1回、写真を多く取り入れた情報誌「白金通信」を家族に提供している。	
11	(7) ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面接を定期てきにおこない職員からの意見や要望を聞くようにしている	日常の業務の中や引継ぎ時、また、会議の中で職員の提案や要望を聞き、話し合いをして運営に反映させている。職員との人事考課測定もあり、目標に対する自己評価や要望、意見、悩みなどを聞く機会を設けている。	
12	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の確保や休憩時間をしっかり取得させている。ひとりひとりに役割を分担したり担当制をとることで職員一人一人が必要な存在だと思えるようにしている		
13	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や他施設の見学等に積極的に参加させている		
14	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や連絡会に積極的に参加している		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族様より要望や状態を細かく聞き取りをしている		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の見学の際より積極的に円滑な関係を築くように努めている		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のききとりより積極的にその方にあったサービスを考えている		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出レクや日常のレクを積極的に行うことで利用者との関係を密にしている		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にたいして常に細かな情報を提供している 毎月1階スタッフより前月の利用者の様子を記入した手紙をおくっている		
20	(8) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの食器や家具や物を居室に持参していただき居室が自宅になるようにしていただいている	入居者のこれまでの生活歴の聞き取りをして馴染みの人や場所を把握し、ケアに活かせる様に努めている。家族、知人の面会を大切にし、馴染みの人との関係を大切にしている。地域散策や祭り、神社巡りなどの「故郷訪ねツアー」、送り火やチンドン屋、五平餅作りや餅つきなど懐かしい場所探しや人、習わしなどの関係性を大切にしている。外食や食材を買う店は新しい馴染みとなっている。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的な席の配置換えをおこなったりトラブルに対して職員が仲裁をおこなうなど日々の暮らしが少しでも楽しくなるようにお手伝いをしていっている		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を変わられた利用者様のもとを訪問したり状態をうかがったりする。また積極的にむかえに訪問し施設にアQ曾比に来ていただいたこともある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	(9) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事での好みを伺って外食にでかけたりしている	日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取り、申し送りノートに記入し、職員間で共有してケアに繋げている。思いの表出が少ない入居者については、家族から情報を得るようにしている。随時職員間で話し合い、本人の思いに沿えるようにしている。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からお話をうかがい今までの生活を把握していく		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定をおこない心身状態を把握していく 週1回の訪問看護師との連携をとっている		
26	(10) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制をとりひとりひとりの状態把握を職員が行っている	担当者が入居者の意向を聞いたり日常の様子を観察し、家族の意向等をふまえて、ミーティングで検討して介護計画を作成している。6か月に1回の定期見直しや随時見直しをし、家族に内容を伝えている。どの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や介護日誌を詳細に記入し情報の共有を行っている		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レクを積極的にとりいれ社会との隔絶のないようにしている ボランティアの方にもきていただき楽しみをみつけていただいている		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や季節の行事をおこなうことで社会とのかかわりをもっていただく		
30	(11) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の訪問のほかにも他科の受診も積極的にお願いしている	月2回、ホームドクターによる内科受診がある。歯科は週1回、眼科は月1回、耳鼻科は2か月に1回協力医による診療を受けている。また、週1回訪問看護師が来訪し健康についての支援をしている。受診情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切なケアが受けられるようにしている。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師との連携、看護師と主治医の連携はとれている		
32	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添いをおこない情報を的確に病院につたえるようにしている		
33	(12) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化されたときは病院への受診や他施設への紹介をし情報を的確に伝えている	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居時に家族に説明をして同意を得ている。入居者の状態に合わせて、その都度病院への受診や、他の施設の紹介など具体的な支援等を話し合っている。	
34	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や重篤な際は救急搬送の手配等をおこない医療との連携をとっている		
35	(13) ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害避難訓練を行っている。地域の防災訓練へも積極的に参加させていた	年2回昼、夜間の火災を想定した訓練を行っている。消防署の立会いの下に、訓練を実施し講評も得ている。水、食品等の備蓄品は少量用意している。地域との協力体制は模索中である。	備蓄品のリスト化や安全に避難できるように、避難通路や待機場所の整理整頓を願いたい。また、運営推進会議等で、避難時の協力要請や避難場所提供など地域との協力体制について具体的な話し合いをし、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。

己自	部外	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時のプライバシーの保護には特に気を付けている 声かけにも注意をはらうようにしている	接遇研修をして職員の意識の向上を図っている。誇りやプライバシーを損ねないよう声かけを行ったり、その人の良さを知るように心がけている。日々のケアや申し送りの中で相互注意をし、入居者の人格や誇りを損なわないように取り組んでいる。	玄関ホールの一画の棚に書類を設置し、職員への日々の点検確認や面会時に家族へ開示をしている。名前の記載されている書類もあるので、情報の漏洩やプライバシー保護に配慮した方法で取り扱うように願いたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には常に自己決定をしていただき容れもたえずうかがうようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や就寝時間もその方にあつたものとしその人らしく暮らしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服ばかり更衣されることのないように洋服も絶えず気にかけて外出時には整容整髪に心掛ける		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中には音楽をかけ好みにあつた味付けをうかがいながら食事を提供している	季節に合った献立を基にした食材が委託業者から届けられ、調理している。入居者の保有能力に合わせ、調理や片付けなどを行っている。そうめん流しや芋煮、稲荷寿司やおせち作りをしたり、五平餅などのおやつ作りや行事食、ガーデンパーティ、外食などの支援もしている。職員も一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日2回のおやつ時間に水分補給をしていただいている。要望によって時間に関係なく水分をほきゆうしていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアをおこなう 1週間に1回の歯科衛生の先生によって嚥下や入れ歯のかみあわせを全員の方がみていただいている		

己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16) ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は声かけトイレにての排泄をしていた だ。	座位で排泄できるような支援に心がけ、一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導をしている。排泄チェック表を基にそれぞれの排泄パターンを把握し、きめ細かなケアに努めている。	
44	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にたよらない便秘予防のために朝の足の運動や繊維質の物を食べて頂いたりしている		
45	(17) ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけをし入浴の順番は交代でおこなっている	週に2度、午前午後の時間帯で入浴し、時間や湯温、入浴介助は一人ひとりに合わせて対応している。入浴を拒む方は、声かけなどを工夫して気持ちを和ませ入浴を促したり、別の日に変えたりしている。菖蒲湯、ゆず湯なども楽しみのひとつとなっている。週1回足湯の支援もしている。	
46	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や横になりたいかたはご自由にすごされている		
47	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表の記入をし薬情報は職員が把握している。のみ忘れ等をしたときは速やかに主治医に連絡し指示をあおいている		
48	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクを常にごいっしょにおこないコミュニケーションもとっている		
49	(18) ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物を個別におこない1か月に1回おこなっている	天候の良い日には職員と一緒に散歩や近くの公園にお弁当を持って出かけている。季節ごとの花見、食材やおやつ、買い物、外食も楽しみとなっている。電車やバスを利用して郊外の公園や空港、みかんやメロン狩りなどへ積極的に出かけている。また、県外への宿泊旅行や町内会の人たちと一緒にバスツアーにも出かけ楽しんでいる。	



己自部外	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はすべて施設でおこない金銭は所持されていない		
51	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりを試みえる方もある		
52	(19) ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは常に清潔に保っている。	採光や風通しの良い食堂と居間がワンフロアの共有スペースで、入居者の動きや気配がよく見渡せる。みんなでリクリエーションを楽しみ元気に過ごしたり、居間でテレビを見たりしてのんびり過ごしている。明るい居間には、季節に応じた手作りの作品や行事の写真が飾られている。	
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの席は固定しているが定期的に席替えをしたりして思い思いに過ごされている		
54	(20) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれのなじみの家具を置いていただき快適にすごしていただいている	自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースや環境作りをしている。また、本人や家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。カーペットを敷いたり、お気に入りの椅子でのんびりくつろげるようにしている。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはわかりやすいよう氏名や「目印を付けている		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390700066		
法人名	ケアネット・ジャパン		
事業所名	ケアネットホーム白金(2階)		
所在地	名古屋市長和区白金1-20-3		
自己評価作成日	平成27年11月26日	評価結果市町村受理日	平成28年2月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年12月21日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気重視し明るい施設です。レクリエーションに力をいれ生活の中でのリハビリをおこなっている。月に1回の外出レクはスタッフもほぼ全員出勤一緒に楽しく過ごしています。施設であって施設でないような日々をご利用様に過ごしていただいています。利用者様お一人おひとりのご希望や意見をうかがいながら寄り添った介護をめざします。ご家族の皆様にも「お母様、お父様の家を訪ねる」気持ちで気軽に面会にお越しいただいています。面会簿や玄関の施錠はしていないので自然体での訪問をしてもらっています。地域に対しても町内会へいられていただいたり行事に参加させてもらったりと開かれた施設をめざしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の近くは幹線道路や高速道路が交差する賑やかな街並みが広がっている。開設3年目を迎えた木造2階建ての趣のある事業所は、路一筋中に面した住宅地に位置している。児童館や保育園に隣接し、近くに公園や小学校、お寺や神社、町工場もあり昔の風情が感じられる。「人としての尊厳と喜びを」根底に職員で日々のケアにつて考え気持ちを合わせ、入居者に沿った支援に努めている。入居者の「今」を大切に、レクリエーションや食育活動に力を注ぎ楽しく参加できるように工夫をしている。「認知症カフェ」や事業所の催しは、新聞広告折り込みやチンドン屋で地域へ情報を発信している。太鼓演奏、流しそうめん、ポン菓子など地域のひとと一緒に楽しみ、積極的に関わりを深めている。また、「故郷訪ツアー」と題して、バスツアーや昔を懐かしむお千代保稲荷などの神社巡り、みかんやメロン狩り、地域の名所散策などを職員や家族、町内会の人々と共に楽しんでいる。寿司や焼き鳥パーティ、五平餅、おせち、お弁当など職員と一緒に作ったり、ハンドベルなど地域のボランティアの演奏や書道、ジャズダンスやゲームなどのレクリエーションをしながら、職員に支えられ自分を活かし元氣よく過ごしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念を掲示し管理者と職員はコミュニケーションを密にとり施設の方針を職員におとしこむようにしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「認知症カフェ」を開催し地域に施設の存在のアピールをおこなっている町内会や敬老会、女性会に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に積極的に参加し認知症の理解をしていただけるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方に積極的に施設へでかけていただけるようにしている。気軽に話し合いができる関係をきづいている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	区の事業所連絡会への参加や他の事業所との連携をとっている。質問等の或る時も積極的に市町村にといあわせをおこなっている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	見守りを重視し声かけを頻回に行っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員同志の懇親に努め虐待等のないように互いに指摘しあえる環境作りを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者様の権利を擁護するために一人ひとりの状態観察をし自立のさまたげのないようになっている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族の理解の得られるように契約の際はわかりやすい内容と言葉で説明し家族からも質問がうけられるような人間関係を築く様努力している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会にみえたときや家族会を行うことで家族の要望や意見を伺い取り入れるようにしている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面接を定期きにおこない職員からの意見や要望を聞くようにしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休憩室の確保や休憩時間をしっかり取得させている。ひとりひとりに役割を分担したり担当制をとることで職員一人一人が必要な存在だと思えるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や他施設の見学等に積極的に参加させている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との勉強会や連絡会に積極的に参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に家族様より要望や状態を細かく聞き取りをしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前の見学の際より積極的に円滑な関係を築くように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時のききとりより積極的にその方にあったサービスを考えている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	外出レクや日常のレクを積極的に行うことで利用者との関係を密にしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にたいして常に細かな情報を提供している 毎月1階スタッフより前月の利用者の様子を記入した手紙をおくっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの食器や家具や物を居室に持参していただき居室が自宅になるようにしていただいている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	定期的な席の配置換えをおこなったりトラブルに対して職員が仲裁をおこなうなど日々の暮らしが少しでも楽しくなるようにお手伝いをしていっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	施設を変わられた利用者様のもとを訪問したり状態をうかがったりする。また積極的にむかえに訪問し施設にアQ曾比に来ていただいたこともある		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	食事での好みを伺って外食にでかけたりしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からお話をうかがい今までの生活を把握していく		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタル測定をおこない心身状態を把握していく 週1回の訪問看護師との連携をとっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当制をとりひとりひとりの状態把握を職員が行っている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や介護日誌を詳細に記入し情報の共有を行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出レクを積極的にとりいれ社会との隔絶のないようにしている ボランティアの方にもきていただき楽しみをみつけていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事への参加や季節の行事をおこなうことで社会とのかかわりをもっていただく		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の主治医の訪問のほかにも他科の受診も積極的にお願いしている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護師との連携、看護師と主治医の連携はとれている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には付き添いをおこない情報を的確に病院につたえるようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化されたときは病院への受診や他施設への紹介をし情報を的確に伝えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や重篤な際は救急搬送の手配等をおこない医療との連携をとっている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な災害避難訓練を行っている。地域の防災訓練へも積極的に参加させていただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時のプライバシーの保護には特に気を付けている 声かけにも注意をはらうようにしている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者には常に自己決定をしていただき容れもたえずうかがうようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間や就寝時間もその方にあつたものとしその人らしく暮らしていただいている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ洋服ばかり更衣されることのないように洋服も絶えず気にかけて外出時には整容整髪に心掛ける		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中には音楽をかけ好みにあつた味付けをうかがいながら食事を提供している		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日2回のおやつ時間に水分補給をしていただいている。要望によって時間に関係なく水分をほきゅうしていただいている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後の口腔ケアをおこなう 1週間に1回の歯科衛生の先生によって嚥下や入れ歯のかみあわせを全員の方がみていただいている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は声かけトイレにての排泄をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	薬にたよらない便秘予防のために朝の足の運動や繊維質の物を食べて頂いたりしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声かけをし入浴の順番は交代でおこなっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や横になりたいかたはご自由にすごされている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表の記入をし薬情報は職員が把握している。のみ忘れ等をしてしまったときは速やかに主治医に連絡し指示をおおいでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクを常にごいっしょにおこないコミュニケーションもとっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	散歩や買い物を個別におこない1か月に1回おこなっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理はすべて施設でおこない金銭は所持されていない		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりを試みえる方もある		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースは常に清潔に保っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの席は固定しているが定期的に席替えをしたりして思い思いに過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はそれぞれのなじみの家具を置いていただき快適にすごしていただいている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはわかりやすい氏名や「目印」を付けている		